第201号(2003年2月)

調査と情報

編集・発行
㈱農林中金総合研究所 基礎研究部
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
TEL. 03-3243-7331
FAX. 03-3246-1984
URL : http://www.nochuri.co.jp
E-mail : sugano@nochuri.co.jp

変わるもの、守るもの

改革の時代といわれて久しい。農業・農協についても改革の必要がいわれてきた。

昨年発表された『「食」と「農」の再生プラン』の中では、農業構造改革推進のための農協改革がいわれている。農協の営農・経済事業改革に関して、消費者ニーズへの的確な対応、組織・事業の効率化・スリム化等の論議が進められている。

また、一二月に出された「米政策大綱」では、「米作りの本来あるべき姿」が提示されている。これは、消費者ニーズを踏まえ需要に応じて安定供給が行われるような消費者重視・市場重視の姿であり、効率的・安定的な経営体が市場を通じて需要を感じ取り「売れる米づくり」を行う姿とされる。そして、このような姿へ向けて系統米事業の改革がいわれている。

ここでの改革のキーワードは、消費者重視と市場重視である。前者は食の安全志向を含む消費者ニーズへの的確な対応と多様な需要への対応である。当然のことであるし、とくに食の安全・安心は消費者の関心の有無に拘わらず供給サイドの責務でもある。後者の背景はWTO体制と国際的な貿易体制の進展である。現在WTO農業交渉が進められているが、今後輸入農産物の増加も想定され、海外農産物と競合・競争できる国内農業の構築(効率化・低コスト化の取組み)が急がれている。

これらは食の質の問題であり、量の問題である。ともに国内農業生産の基本に関わる問題である。

とくに懸念されるのは、量(国内農産物の安定供給)の確保である。効率化を徹底するとともに、質(安心・安全)を確保することが消費者の支持と信頼を獲得し、量確保の最大の武器になると思われる。食料自給率の低下懸念、また食品安全問題への社会的な関心の高まりを踏まえ、国内農産物への信頼を飛躍的に高める取組みを強めていきたい。系統農協も安心システムの拡充やトレーサビリティーシステムの確立など「食に対する信頼性の危機」を大きな課題として取組んでいる。地産地消、農産物直売所の取組み等、地域農産物に対する消費者の信頼は着実に高まっている。今後一層の拡大・深化が期待されている。

また、改革がいわれる背景として、遅れているといわれる水田農業の生産構造と農村社会の変化(農業就業者の高齢化、耕作放棄地の拡大等)がある。担い手育成とこれへの耕地集積等を進め、価格競争力を強めていくことが必要だが、水田農業は集落共同体を基盤に成立し、維持されてきたし、またこれにより農業の多面的機能が発揮されてきた。現在各地で農協を主体に農地賃貸借や作業受委託、また集落営農等地域農業を守る取組みが行われている。農を基盤とする農協のこのような活動はまた消費者・国民の支持と信頼を高めるものであり、期待されているものである。

(主席研究員　鶴澤伸一郎)

今月のテーマ：これからの農協

変わるもの、守るもの…… 1
「総合」農協の転換点…… 2
協同組合研究の視点……3～4
農協の営農指導と農業融資 ……5～6
ぶっくレビュー『市場経済の中の日本農業』… 7
あぜみち…… 8
フードシステム…… 9
統計の眼「アメリカにおける異常気象と穀物需給」…10
編集後記……10